

CULIB NEWS

「図書館へようこそ」

学術情報システム部長 松川 正幸

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。2年生以上の学部生や院生の皆様、この一年間を有意義に過ごされ、充実した年になることを祈念いたします。皆さんは、大学の図書館にどのようなイメージを持たれていますか？小学校・中学校・高校にある図書室のようなイメージでしょうか？それとも市区町村にある公共図書館のようなイメージでしょうか？定期試験や受験勉強でお世話になった方も沢山いることでしょう。今回は、そういった図書館とは少し異なる大学図書館に特有な2つの特徴をお伝えしたいと思います。

1. ラーニング・スクエア

学生の皆さんが自由に利用できる「能動的学修施設」です。これから受ける授業の中には、グループ単位で課題が出されることがあります。そんな時は、ラーニング・スクエアに来て下さい。レイアウト自在な机・イス・ホワイトボードが用意されていて、ディスカッションしながら発表用の資料を作成することが出来ます。また、困った時にはラーニング・アドバイザー（院生の先輩方です）に相談することも出来ます。



2. 充実した電子書籍等

図書館ホームページから利用できる電子書籍・電子ジャーナル（学術雑誌）・新聞記事等のデータベー

スを充実させています。普段の学習だけでなく、就職活動や資格取得の勉強にも役に立ちます。以下では、皆さんの大学生活を豊かにするのに役立ちそうな電子書籍をいくつかご紹介させていただきます。

Japan Knowledge

日本を代表する約50種類の辞事典、叢書、雑誌から検索できるインターネット百科事典です。これさえあれば、レポート提出は完璧かも。MaNaBoからも利用できます。

地球の歩き方 e-book

175か国の「地球の歩き方」を読むことが出来ます。短期留学先や夏休みの旅行先を決めたりするのに最適です。自宅のパソコン、学外でのスマホでも利用できます。

手塚治虫マンガ電子図書館

鉄腕アトムやブラックジャックなど、手塚治虫のマンガを8か国語で読むことが出来ます。息抜きや語学学習に役立ててください。

また、2018年度から新たに学生協働（学生の皆さん自身で図書館を良くしていく）という取組みを始めました。興味のある方は図書館スタッフに声をかけて下さい。

2019年度は平成最後の年であると同時に新しい元号の元年となり、大きな節目の年になると思われます。本学も新入生の皆様は、ノートパソコンを持参して授業を受けるような形に変わっていく、大きな節目の年になります。ぜひ、図書館とノートパソコンを活用して充実した学生生活を送ってください。

CULIB HISTORY

「クリブヒストリー」

— 図書館の過去・現在・未来 —

第8章

課題と展望

2015年に連載をスタートした「クリブヒストリー」も、本章で最終となる。「現在」から「過去」にさかのぼる形で綴ってきたクリブヒストリーは前章、中京短期大学が開学した昭和29（1954）年にたどりついた。中京大学図書館の「源流」に到着したと言える。この壮大な物語を締めくくるにあたって、最終章では2015年以降の最新の図書館の動向を紹介するとともに、今後のあるべき姿を展望する。

第1節 能動的学修の支援

現在の図書館の重点施策の一つは、ガラス張りの能動的学修支援施設「ラーニング・スクエア」の活性化だ。「読書や思索の場」としての図書館機能に加え、自主学習や討論、プレゼンテーションを行う「アクティブ・ラーニング（能動的学修）の場」として注目してもらうために、学生を対象にした多彩なイベントを展開している。

学生たちがレポートや論文の作成に必要な資料収集スキルを習得することは、能動的学修を進めるうえでは必須の手段である。2018年11月には、論文を執筆するための文献管理ツール「エンドノート」と、自然科学や社会科学の主要な雑誌を収録した文献抄録データベース「ウェブ・オブ・サイエンス」の使い方講習会が名古屋・豊田の両図書館で開かれ、卒論を控えた学生たちがパソコンを使いながら、文献検索や管理の方法を学んだ。



▲論文執筆のための文献管理ツールの使い方を学ぶ学生たち（豊田図書館）

CULIB HISTORY

名古屋・豊田の両図書館では、本学の大学院生から「ラーニング・アドバイザー」を募ってラーニング・スクエアに配置し、学生の相談に乗ってもらっている（一斉休暇時期や試験期間等を除く）。レポートや論文の書き方、プレゼンテーション資料の作り方、ワードやエクセルの使い方など指導範囲は広いが、「英会話講座」「韓国語講座」「SPI 講座」「プログラミング講座」など、アドバイザーが得意とする分野の講座も積極的に実施している。2018年6月には、“島根県出身のアドバイザー” 玉木竣也さん（心理学研究科修士2年）が、「島根県を知ろう！」の表題で講演した。「島根県は鳥取県の右にあるか左にあるか？」といった基本的な話から、「人口減少率が激しく、日本の中で明治時代よりも人口が少ないのは島根県だけ」といった悲しい現実、出雲大社や名物・出雲そばの話題、さらには出雲弁で「ありがとう」を「だんだん」と言うことなど硬軟とりまぜた話の数々に、参加者たちは「島根県に親近感を持ちました」と好評だった。

また、2015年からは、図書館職員による「文章講座」もラーニング・スクエアやグループ学習室を利用して行われている。講座では少人数の学生がグループを作り、作文や小論文を持ち寄って批評し合い、講師が原稿を添削して文章力のアップを図っている。2018年にはラーニング・アドバイザーの大学院生が学部生の文章を添削指導する試みも初めて行われた。

ラーニング・スクエアには、無線 LAN (Wi-Fi) やパソコン、プロジェクターなどのネット環境が整備されているため、プレゼンテーションの予行演習をする光景や教員が授業でラーニング・スクエアを活用する機会も増えてきた。2018年11月には、司書課程担当の中川豊先生（文学部）と豊田図書館が共催で「ビブリオバトル（知的書評合戦）」を開催した。ビブリオバトルとは、発表者（バトルー）たちがそれぞれお気に入りの本1冊を持ち寄り、その本の魅力を5分間で語るというもので、最後に投票によって最も読みたくなった本を決めるというイベントである。



▲お気に入りの本の魅力を紹介する発表者（豊田図書館）

CULIB HISTORY

今回は学生7人がお奨めの本を聴衆の学生たちの前で熱弁し、会場は盛り上がりを見せた。投票の結果、現代社会学部4年、野地一步さんが発表した山田悠介著「ニホンブンレツ」がチャンプ本に選ばれた。他の6人が発表した本は、梨木香歩著「家守綺譚」、ダグラス・アダムス著「銀河ヒッチハイク・ガイド」、三浦しをん著「月魚」、住野よる著「君の隣臓をたべたい」、ピエール・ルメートル著「監禁面接」、吉田悠軌著「一行怪談」。7冊の本は豊田図書館で展示された。

第2節 「紙媒体」中心から「電子媒体」重視へ

大学や研究機関では近年、学術研究成果を電子的に蓄積・保存し、国内外に発信する「機関リポジトリ」を構築するようになった。本学も2014年6月11日から「中京大学学術情報リポジトリ」の運用を開始し、かつては紙媒体で出版し他関係機関へ送付していた学内の紀要や紙媒体でしか見ることの出来なかった博士論文などを掲載している。リポジトリへの論文等の登録・公開の申請受け付けは、図書館事務課が行っている。

リポジトリに掲載された学術研究成果物は、インターネットを通じて、誰もが無料で閲覧できるため、本学の学術研究成果である論文へのアクセスや引用をされる機会も増え、大学の認知度のアップ、国際的な学術交流の促進にもつながっている。

ちなみに、本学のリポジトリ利用状況は、2015年1月は閲覧回数150回、ダウンロード回数は552回だったが、2018年12月には閲覧回数が2万108回と、初めて2万台に乗り、ダウンロード回数も6万4299回と、急激な伸びを見せている。

大学生になると原著論文を読む機会が増える。さらに大学院に進めば修士論文、博士論文の作成にあたって学術雑誌等から原著論文を参照することは必須事項だ。特に近年では学術研究の最新成果を知るうえで、電子ジャーナル（電子化された学術雑誌）が果たす役割がきわめて大きく、理系雑誌の多くは電子ジャーナル化している。このため、本学もシュプリンガー・ネイチャー社やケンブリッジ大学出版といった大手出版社と購読契約を結び、電子ジャーナル等の電子出版物を研究者や学生、大学院生に提供している。

電子ジャーナルだけでなく、電子書籍（e-book）の取り扱いも増えている。学認システムを使って、自宅のパソコンやスマホの画面で気軽にダウンロードして読むことができるものもあり、学生からの人気も高い。本学の電子書籍の受け入れ件数は、2010年度はわずか3件だったが、2017年度には1887件まで増え、2018年度は前年度比1.5倍の2425件と飛躍的に伸びた。さらに2019年4月からは、電子書籍化された本（主に旅行のガイドブック）をパソコンやスマホで借出できる、仮想の図書館「電子図書館」もスタートする。図書館のホームページにある「中京大学電子図書館(e-culib)」をクリックして閲覧・貸出をする。

デジタル社会の進展に伴って、ノートパソコンを図書館に持ち込んでレポートを書いたり、電子ジャーナルや電子書籍などのデジタル資料を利用したりするなど、学生たちの図書館利用方法も変化してきた。図書館では今後も電子ジャーナルやデータベース、文献管理など、学生に使いこなしてほしいソフトや学術プラットフォームに関する講習会やガイダンスを数多く開催し、電子時代における学

CULIB HISTORY

習支援を促進していく考えだ。

第3節 学生協働

本学図書館が近年、強化している活動の一つに、「学生協働」がある。学生たちに図書館の業務の一端を担ってもらおうというもので、具体的には、学生たちが書店に出向いて、店頭にある本の中から図書館の蔵書としてふさわしい本を選ぶ「選書ツアー」や図書館イベントのサポートなどの活動がある。

「学生協働」としての新たな取り組みの一つは、2018年秋学期からスタートした「図書館広報隊」の活動だ。図書館業務に関心を持つ学生を募って、図書館スタッフの一員としての働きをしてもらっている。初代の「広報隊」には6人の学生が参加し、企画展示をプロデュースする「展示班」とニュースレターなどの「作成班」に分かれて活動した。

展示班のメンバーは久保田鈴菜さん、伴華奈さん、金子詩緒莉さん（いずれも文学部3年）。「雪」にちなんだ本や映画のDVDを選んで、2019年1月8日～28日まで名古屋図書館に展示した。3人は週に1回程度のペースで食堂に集まり、展示物のテーマや展示方法などをめぐって議論を重ねた。展示期間が冬になるため、「雪」をテーマとすることを決定。久保田さんらは「ライブラリーサービスセンター（LSC）に配架されている小説を片っ端からあたって『雪』にちなんだ小説を探した。選書には苦労したがとても楽しかった」と振り返る。



▲図書館スタッフに活動の経過を報告する図書館広報隊の学生（名古屋図書館）

一方、作成班のメンバーは柗山七海さん（心理学部4年）、桑澤香波さん（心理学部3年）、杉山桃子さん（文学部2年）の3人で、ニュースレターやブックカバーを制作した。

ニュースレターのタイトルは、「1冊の本からひろがる世界」。単なるお奨め本の紹介ではなく、「理科系」を自認する学生には建築物に関する本、アウトドア派の学生のためには「世界遺産」に関する本、直観派の学生のためには「西洋美術」に関する本など、読者の多様なニーズに応える内容に仕立てた。また、大学図書館特有の閉架書庫の利用方法も載せた。柗山さんたちは「学年の異なった学生と意見交換しながら制作にあたることができ、とても勉強になった」と言う。

CULIB HISTORY

豊田図書館では春学期と秋学期に各1回、ゲーム感覚で楽しんでもらう館内イベントを実施している。イベントには「怪盗トランプからの挑戦状」、「時空図書館からの脱出」といったタイトルがつけられ、参加者はiPadの画面やQRコードなどを手掛かりに、館内に仕掛けられたクイズ形式の謎解きに挑戦し、正解を見つけ出す。日ごろ図書館になじみの薄い学生たちに少しでも親近感を持ってもらおうと、2017年度から始めたが、毎回好評だ。

このイベントの最大の特徴は、図書館スタッフが意欲のある学生に呼びかけて、一緒にゲームの制作にあたる点だ。ゲームに詳しいスタッフの指導の下、クイズの作成を現代社会学部の学生、Webページの開発やQRコードの作成を工学研究科情報工学専攻の大学院生、iPadの動画作成を工学部の学生が担当したケースもあり、まさに「学生が主役」となってイベントを盛り上げている。「学生協働」活動には、学生の主体性やコミュニケーション能力が引き出され、キャリア形成につながっていくメリットがある。図書館では今後も、学生たちの可能性が広がるように多様な活動を展開していく考えだ。

第4節 地域との連携

本学は長期計画「NEXT10」の中で、「社会連携－地域の交流・連携の核となる」を目標の一つに掲げ、図書館もその精神に沿う形で地域との交流を積極的に行っている。地元の中学生の「職場体験学習」受け入れは、その具体例ともいえる。職場体験学習は中学校のキャリア教育の一環で、生徒に社会的なマナーを身に着けさせるとともに、進路選択についての考えを深めてもらう狙いがある。

地域連携の具体例としては、貴重図書「館外貸し出し」も挙げられる。本学図書館の目玉の一つは貴重本であり、中でも14世紀（鎌倉時代）の古写本『源氏物語』54巻（53帖）は屈指の善本だ。その源氏本が2018年11月3日～12月16日、名古屋市東区の徳川美術館からの依頼を受けて、同館の特別展「源氏物語の世界－王朝の恋物語」に館外貸し出しの形で出品された。



▲徳川美術館の特別展「源氏物語の世界」に出品された本学所蔵の古写本

特別展には徳川美術館が所蔵する国宝「源氏物語絵巻」をはじめ貴重な写本類が展示されたが、本学の所蔵本も展示コーナーの一角に陳列された。桐壺、空蝉、夕顔など31帖の表紙には、帖名を意

CULIB HISTORY

匠したモチーフが金銀粉の型抜き（マスクング）による箔絵はくえの手法であらわされており、「源氏」の研究者や学生らが熱心にメモを取る姿が見られた。本学図書館では今後も、こうした地域貢献に前向きに取り組んでいきたいと考えている。

第5節 課題

昭和29（1954）年に中京短期大学、2年後の昭和31（1956）年には4年制大学の中京大学が創設された。大学は1学部1学科から始まり、2019年までの63年間で11学部18学科、大学院は9研究科15専攻までとなった。この間、図書館は必要資料の購入と保存を続け、わずか1万冊から始まった蔵書数は、今や104万冊を超える状況となっている。100倍である。

名古屋図書館（NL）、ライブラリーサービスセンター（LSC）、法学文献センター（LLC）、豊田図書館（TL）の4館体制となった現在、年間の利用者は51万人にものぼる。

大学の成長とともに図書館も大きく成長したが、将来を展望すれば課題も残されている。その一つは、増え続ける蔵書への対応をどうするかである。自動書庫を備えた現名古屋図書館の収蔵可能冊数は100万冊。他の3館を合わせると、全体では約180万冊を保有することができる。しかしこれにも限界がある。あと数十年たてば4館の書庫はいっぱいになり、増築や改築の計画を練らなければならなくなる。時には劣化する資料や利用価値のなくなった資料を破棄する決断を迫られることにもなる。

その一方で、資料の電子化や電子資料活用の重要性は今後、一段と増していくことは確実だ。図書館はホームページの内容を充実させると同時に、電子資料の貸出やデータベースの利用をこれまで以上に推進していかなければならない。

中部地区にとどまらず、日本の大学図書館の中で中京大学図書館が大きく飛躍するためには、何をなすべきか。最も心掛けるべきことは、“利用者サービスの向上”であると考えます。「今の利用者が図書館に何を求めているか」に対応することが、図書館を変革する大きな鍵となる。

「多くの資料を読めるようにしてほしい」「勉強のできるスペースを確保してほしい」「友達やゼミ仲間と学習テーマなどいろいろディスカッションしたい」「プレゼンテーションの練習をしたい」「レポート作成のサポートをしてほしい」「分からないことに答えてほしい」。

図書館には学生から多様な声が寄せられる。これまでも出来得る限りの対応をしてきたが、今後もより一層、学生の声に耳を傾け続けていきたい。例えば、学生選書の機会を増やすことも一つの検討課題だろう。選書ツアーの規模を拡大する、電子書籍の選書など図書館が収集すべき資料の多くを学生に選書してもらい、図書館職員と学生による選書委員会などを月1回程度開催して選書する——といった試みも面白いかもしれない。

今後の図書館を発展させていくためには、多くの学生が図書館とかがわることが何より大切な事柄であることは間違いないのである。図書館は大学の「顔」とも言われている。「良い図書館」を持つ大学は「良い大学」であると考えます。図書館の成長は大学の成長につながることを信じ、“学生とともに成長する図書館”を目指し、邁進していきたい。（終わり）

（前名古屋図書館参事 加藤 恭輔）



『本居宣長』

城福 勇

吉川弘文館

38歳頃に『古事記』の注釈書執筆を志し、寛政10年（1798）69歳のときに全注釈を書き終える。その年月およそ30余年。44巻44冊『古事記伝』の全巻終業である。執筆者は現在の三重県松阪市出身の本居宣長である。宣長は他にも『漢字三音考』『詞の玉緒』などの語学書、『新古今和歌集美濃の家づと』『古今和歌集遠鏡』などの歌学書、随筆『玉勝間』などを執筆して、次々に刊行していく。宣長が生前に刊行した著作は31種。死後も含めると50種の著書が出版された。その生涯において途切れることのない学問に対する探究心と継続力には驚かされる。本書は本居宣長の幼少期からはじまり京都遊学、医者として身を立てつつも、一方で学者として大成していく姿を克明に描く。ちょっと挫けそうなときに、本書を開いて自身を鼓舞したい。

文学部 准教授 中川 豊



『餃子屋と高級フレンチでは、どちらが儲かるか？』

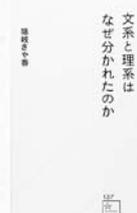
林 總

PHP 研究所

本書は、会計学の基礎を学習するに適した図書である。といっても「会計」や「経理」といった言葉がタイトルにつかないことから想像できるように、標準的な会計の専門書・教科書ではない。物語形式による事例を通じて、まずは感覚として会計の重要性に触れてもらうことを意図した著書である。内容としては、急逝した父親の遺言により突如として倒産寸前のアパレル会社を継ぐことになった主人公が、会計を学びながら経営に奮闘するさまを描いたものである。難しすぎず、噛み砕いた内容となっていることから、会計学を学ぶ際の最初の著書としては最適ではないだろうか。なお、本書は、会計学の専門家の間では有名な本である。林先生の著書は、他にも物語形式のものが多く、どれもわかりやすいため、ぜひともそれらについても一読をお勧めしたい。

経営学部 講師 齊藤 毅

書籍紹介 先生編



『文系と理系はなぜ分かれたのか』

隠岐 さや香

星海社

「文系と理系という区別はもはや不要である」と説かれるようになって久しい。実際、1970年代以降、学問分野の垣根を超えた学際的研究に対する注目が高まり、学際系学部を有する大学が増えている。他方で、2015年には文部科学省が国立大学に対し、文系学部の廃止や組織改編を求める通知を出したことが契機となり、「文系不要論」が論争の対象となった。このように文系・理系という区別は依然として根強く残っている。

しかし、そもそも文系と理系という区別がいつ、どのようにして発生したのかという点について、我々は十分理解した上で議論しているのであろうか。本書は、科学技術史を専門とする著者が、この問題について中世にまで遡って検討するものである。また、本書は、文系・理系の就職活動問題など学生にとって身近な問題にも言及している。是非一読を勧めたい。

法学部 准教授 小嶋 崇弘



『給食の歴史』

藤原 辰史

岩波新書

今、「食」のテーマが熱い。子ども食堂もコミュニティカフェも学校給食も。本書は、主に学校給食にスポットを当て、明治時代の萌芽期から現代まで、災害、戦争、経済復興と成長、新自由主義の台頭など、現代日本の出来事との関わりを浮かび上がらせていく。給食とは実に多面的な分野を往来する魅力的かつ複雑な現象である。しかし著者は常に変わることなく給食の原点であり続けてきた問題に注意を促す。それは、貧困家庭の子どもたちの救済である。最も重要なことであるが、すぐに隠されてしまうことでもある。貧困家庭の子どもたちに、できるだけスティグマを与えぬように工夫されてきたことも、新自由主義によって効率化のターゲットになり、それに立ち向かう市民の話も興味深い。日本で給食が始まった経緯や理由、給食が今日までにどのような変化や危機にさらされ続けてきたのかがわかる本。

現代社会学部 教授 成 元哲



『おまじない』

西 加奈子

筑摩書房

本作は全8作の短編集で、主人公は全員「女の子」だ。年齢に関係なく、レスビアンやファッションモデル、キャバ嬢や妊婦といった様々な女性が登場する。彼女たちはそれぞれ社会の価値観によって生きづらさを抱えているのだが、それを救うのが「おじさん」が放つ一言だ。タイトルの「おまじない」とは、おじさんが女の子にかけるおまじないなのである。誰かからの何気ない一言で元気になった、救われた経験は誰にでもあるだろう。この作品では、一見遠い存在で、相反するような「女の子」と「おじさん」が、短い言葉で救われたり、励まされたりする。物語の女の子たちのように、読んだ人にも「おまじない」を受けとってほしい。特に私がおすすめしたいのは「孫係」だ。祖父と孫娘がひょんなことから一か月間同居することになるという話で、周りの人間関係に疲れがちな人にぜひ読んでもらいたい。

現代社会学部 2年 丸井 未由



『恋する寄生虫』

三秋 縋

メディアワークス文庫

ウェブ上で小説を発信したことで一躍有名になった、今注目の若手作家、三秋縋の書き下ろし作品である。極度の潔癖症が原因で失業中の青年、高坂賢吾と、寄生虫について深い知識を持つ不登校の少女、佐藤ひじり。とある人物を通して結びついた二人の出会いに潜む思惑と、隠された悲しい真実を描く。お互いに抱いてしまった恋愛感情が寄生虫によるものだと知ってしまった時、果たして彼らはどういった運命を辿るのか。最初から最後まで目が離せない一冊だ。三秋の描く小説の最大の特徴は、独特な世界観の中で繰り広げられる男女の恋愛模様だが、この物語においても例外ではない。高坂と佐藤が恋に落ちたのは必然だったのか、寄生虫による操り人形の恋に過ぎなかったのか。その真実は是非、皆さんの目で確かめてみて下さい。

法学部 2年 小栗 ひなの

書籍紹介 学生編



『人生の勝算』

前田 裕二

幻冬舎

パソコンやスマホの利用者にライブ配信することが可能なサイトを運営する「SHOWROOM」社長、前田裕二氏。この本には幼少期から起業に至るまでの様々なエピソードや今後の展望が記されている。大学生にとって特に参考になるのは、彼の圧倒的な努力量だ。就活の際には、面接者からどのような質問をされても答えられるように、「自己分析ノート」を30冊以上も書き上げた。UBS証券に入社後は毎朝、日経新聞を隅々まで読んで営業トークに生かし好成績を取めた。「SHOWROOM」を立ち上げたのも、「生まれた境遇や人種など、自分ではどうにもならないハードルを熱量や努力次第で超えられる仕組みを作りたい」という思いからだ。「後天的な自分の力でどこまでも高みに行こう」とチャレンジする彼の思考プロセスが、どのエピソードからも読み取れる。

経営学部 3年 浅井 翔



『子どもの貧困と食格差 : お腹いっぱい食べさせたい』

阿部 彩・村山 伸子・
可知 悠子・鷹 咲子

大月書店

日本の格差問題というと、これまで経済格差、教育格差などが指摘されてきたが、それにもう一つ、食格差が加わった。国の調査によると、家庭の経済状況が厳しいほど栄養バランスの悪い食事を取る子どもが多いという。そのことで、肥満や疾病に罹患するリスクも高まる。学校がある時期は給食があるのでバランスの良い食事を取るが、休み期間は食格差が広がる。こうした問題を放っておけないと立ち上がったのが、地域の子ども食堂である。子ども食堂は、子どもたちに無料または安価で食事を提供し、安心して過ごせる場所として始まったが、運営資金などの問題で、月に1~2回ほどしか開催できないのが実情である。食格差の緩和のために家庭への支援に加え、学校で朝ごはんの提供も行われている。食格差を多くの人に知ってもらい、解決するために本書を手にとってもらいたい。

現代社会学部 2年 平本 駿介

LET'S USE
CULIB SEARCH

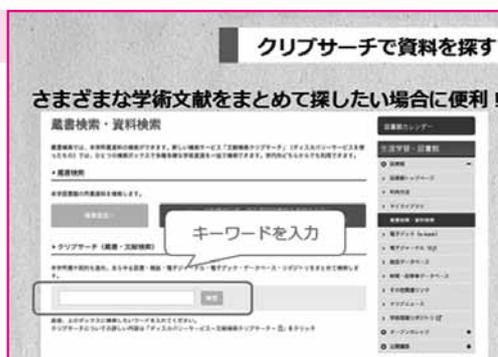
文献を一括で探す方法

～クリブサーチを使おう～

図書館ホームページ（HP）で、図書・雑誌・電子ジャーナル・電子ブック・データベース・リポジトリなどを一括検索できるシステムがあります。本学ではこのシステムを「クリブサーチ」と呼んでいます。検索の結果、Web上で本文を見ることが出来る資料もあります。また、中京大学に所蔵されているかどうかも分かります。図書館にある端末やご自分のパソコンから検索できます。

ステップ1 資料を探す

- 図書館 HP 右側のリンクボタン「蔵書検索・資料検索」をクリックします。
- クリブサーチの検索窓に入力します。
- 具体的に読みたい文献が決まっていない場合は、探したい情報のキーワードを入れて検索ができます。
- 探したい文献が決まっている場合はタイトルなどを入力すると検索ができます。
- 検索結果が多いときは絞り込みをすることができます。資料のタイプ（論文、図書など）、Web上で本文が読めるものなどで絞り込めます。
- 読みたい文献が見つかったらタイトルをクリックします。文献の情報が詳しく分かります。



ステップ2 文献の情報を読みとく

- 文献の詳細情報が記載してあります。タイトル、著者、掲載誌名、出版者、出版年、巻号、ページなどの情報が分かります。必要な情報はメモを取りましょう。



ステップ3 Web上で論文を読む

- 「本文あり」と記載されているものは Web 上で論文の本文を読むことができます。「オンライン資料ヘリンク」をクリックしてください。



ステップ4 中京大学での所蔵を確認する

- 「本文なし」と記載されている場合は中京大学に所蔵がないか見てみましょう。「入手方法」をクリックすると、中京大学での所蔵の有無を確認できます。
- 所蔵情報から、中京大学に所蔵があるか分かります。本学の検索システム「OPAC」とリンクしており、「GO」ボタンを押すと所蔵検索結果が分かります。



各タブの見方

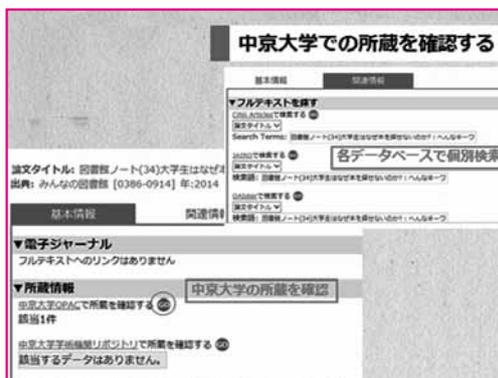
● 基本情報

・ 電子ジャーナル

フルテキストが見られる場合はリンクが表示されます。

・ 所蔵情報

中京大学所蔵資料の検索ができます。



● 関連情報

Cinii Articles など、他のデータベースで該当文献を個別検索することができます。

2019年度 図書館カレンダー

図書館の一年間の開館予定がご覧になれます。

各館ごとの臨時休館、開館時間の変更等は、図書館ホームページの【ニュース】でご案内いたします。

◎通常の開館時間

	名古屋図書館 (NL)	ライブラリーサービスセンター (LSC)	法学文献センター (LLC)	豊田図書館 (TL)
平日	9:00～22:00 <small>(中京大学の教職員証・学生証をお持ちでない方は下記時間内に入館して下さい 平日9:00～19:00、土曜日9:00～15:00)</small>	9:00～20:00	9:00～19:00	9:00～20:30
土曜日		9:00～12:30	9:00～12:30	9:00～17:30

◎日付の色について

無印は通常開館日 (開講期)

○は休講期 (全館 平日9:00～17:00、土曜日9:00～12:30)

■は休館日 ※7/13 NL、7/14 NL、7/21 TL はオープンキャンパス開催に伴い公開 (9:00～16:00) しますが、通常の図書館業務は行いません。

●は定期試験月の休日開館日 (10:00～17:00) LSCのみ

名古屋図書館 (NL)							ライブラリーサービスセンター (LSC)							法学文献センター (LLC)							豊田図書館 (TL)										
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
	①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥		①	②	③	④	⑤	⑥				
4月	7	8	9	10	11	12	13	4月	7	8	9	10	11	12	13	4月	7	8	9	10	11	12	13	4月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20		14	15	16	17	18	19	20		14	15	16	17	18	19	20		14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30						28	29	30						28	29	30						28	29	30				
			1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4				
5月	5	6	7	8	9	10	11	5月	5	6	7	8	9	10	11	5月	5	6	7	8	9	10	11	5月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18		12	13	14	15	16	17	18		12	13	14	15	16	17	18		12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25		19	20	21	22	23	24	25		19	20	21	22	23	24	25		19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31			26	27	28	29	30	31		26	27	28	29	30	31		26	27	28	29	30	31			
						1							1								1							1			
6月	2	3	4	5	6	7	8	6月	2	3	4	5	6	7	8	6月	2	3	4	5	6	7	8	6月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15		9	10	11	12	13	14	15		9	10	11	12	13	14	15		9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22		16	17	18	19	20	21	22		16	17	18	19	20	21	22		16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29		23	24	25	26	27	28	29		23	24	25	26	27	28	29		23	24	25	26	27	28	29
	30								30								30								30						
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
7月	7	8	9	10	11	12	13	7月	●7	8	9	10	11	12	13	7月	7	8	9	10	11	12	13	7月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20		●14	15	16	17	18	19	20		14	15	16	17	18	19	20		14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27		●21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31					●28	29	30	31					28	29	30	31					28	29	30	31			
				1	2	③					1	2	③					1	2	③					1	2	③				
8月	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	8月	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	8月	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10	8月	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	10
	11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17		11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	②3	24		18	19	20	21	22	②3	24		18	19	20	21	22	②3	24		18	19	20	21	22	②3	24
	25	②6	②7	②8	②9	③0	31		25	②6	②7	②8	②9	③0	31		25	②6	②7	②8	②9	③0	31		25	②6	②7	②8	②9	③0	31
	1	②	③	④	⑤	⑥	⑦		1	②	③	④	⑤	⑥	⑦		1	②	③	④	⑤	⑥	⑦		1	②	③	④	⑤	⑥	⑦
9月	8	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	9月	8	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	9月	8	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	9月	8	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
	15	16	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		15	16	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		15	16	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒		15	16	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
	22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
	29	30							29	30							29	30							29	30					

発行 中京大学図書館

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-7157 <https://www.chukyo-u.ac.jp/extension/library/> 印刷 株式会社一誠社